

よろこび

聖徒のための情報誌

今月号の内容

東日本大震災 津波そして地震 リポート(1・2面)

日蓮大聖人の歩まれた道・聖徒の体験談(3面)

よろこび法話(4面)

平成23年(2011年)6月1日(水)

6月号

発行所
〒873-0002
大分県杵築市南杵築1539番地
妙経寺内

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄
日蓮宗霊断師会事務局
電話 0978-62-3570
FAX 0978-62-3571

編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

さる四月七日、東日本大震災で避難所の一つとなった、釜石市仙寿院(聖徒団)の芝崎恵應団長に、特派記者・新聞正興上人(東京都感通寺聖徒副団長)が、長時間インタビューしました。テレビや新聞ではわからない、厳しい避難生活の現実を伝えていきます。芝崎団長上人は自分の寺に避難している人たちの生活物資確保のために、ガレキの中を自ら探しに行かれたそうです。そんな奮闘の日々を聞きまとめた渾身のレポートです。

なお、この取材のために、現地でお世話くださった、岩手県遠野市法華寺聖徒団・阿部是真副団長にあらためて感謝申し上げます。

まずもって、東日本大震災によって、お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りいたします。また、震災にあわれた総ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

三月十一日、東日本を襲った大地震と津波は、一瞬にして全てを消し去りました。会社・地域・生活とともに友人、知人、そして家族。そこには、いたたまれない感情があります。昨日まであったものがそこにはないのです。しかし、今までなかったもの、気付かなかった何かが被災地にはありました。それを、この記事を通して感じて欲しいと思います。

さる四月七日、東日本大震災で避難所の一つとなった、釜石市仙寿院(聖徒団)の芝崎恵應団長に、特派記者・新聞正興上人(東京都感通寺聖徒副団長)が、長時間インタビューしました。テレビや新聞ではわからない、厳しい避難生活の現実を伝えていきます。芝崎団長上人は自分の寺に避難している人たちの生活物資確保のために、ガレキの中を自ら探しに行かれたそうです。そんな奮闘の日々を聞きまとめた渾身のレポートです。

なお、この取材のために、現地でお世話くださった、岩手県遠野市法華寺聖徒団・阿部是真副団長にあらためて感謝申し上げます。



避難所となった仙寿院本堂

いほう、まったく影も形もなく土台がむき出しの住居。友人が言うには「一週間前までは亡くなられた方の遺体がいちるところにあつたよ」とのこと。まったく想像出来ないことが同じ岩手県、日本で起こっていたことへの衝撃は言葉では言い表せません。仙寿院に続く道路では、川沿いに被害がありましたが、町並みはしっかりと残っていて、スーパーマーケット等の量販店も営業し、人も往來していました。

しかしながら、大只越町にはいると景色は一変。車の上に車が重なり、道路は通ってはいないもの様々。瓦礫の壁に阻まれていました。なおさら震災直後のこの道路状況は想像に難くない。仙寿院さんが近

づくにつれて、避難所の方々に会うと思うとドキドキするとともに、不安でいっぱいでした。何て声をかければいいのか。芝崎団長の笑顔のお出迎えにより、消しとんでしまいましたが、芝崎団長は、震災直後から、すぐにお寺を避難所として奔走されており、貴重なお時間をいただいた。震災の状況から、これから何が出来るかということをお話していただき

《震災直後のこと》

地震のときは、寺(仙寿院)にはいなかった。車で走っていて、ちょうど橋の上を差し掛かった時に地震にあつた。一度目の地震の時には、真つ直ぐ道路を走っていて、二度目のどつかい地震がきたときには、ちようど橋の上だった。車がボンツとすごい勢いで飛び上がった。とても驚いた。これは一大事だと直感した。絶対に大きい津波がくると思っ

て、来た道を急いで折り返して、「俱生神様お守り下さい。南無妙法蓮華経」と唱え、やっとの思いでここ(仙寿院)に帰ってきた。一分後には、津波がワーツと。速かった。ビックリして津波をみながら見ていたら、その後、波が引き始め、釜石の港から、かなり沖まで底が見えた。その時には、三百人くらいは避難していたと思う。みんなと上から見ていて、波が盛り上がったと思うと白波が立ったから、来た！来た！これは大きいって思ったんだけど大きいどころじゃなかった。高架橋が波に浸っていた。信じられない。波が建物にぶつかる、もの凄く大きい音が出る。ドーン！ドーン！って。それがコンクリートの建物で、波が次々当たって、水煙が立つから、ここまで来た、あそこまで来たって、うことが分かる。だんだん音が近くなってきた時に、「止まってくれー止まってくれー」って、みんな大きな声で叫んで何とか何とか止まって

《震災直後のこと》

地震のときは、寺(仙寿院)にはいなかった。車で走っていて、ちょうど橋の上を差し掛かった時に地震にあつた。一度目の地震の時には、真つ直ぐ道路を走っていて、二度目のどつかい地震がきたときには、ちようど橋の上だった。車がボンツとすごい勢いで飛び上がった。とても驚いた。これは一大事だと直感した。絶対に大きい津波がくると思っ

て、来た道を急いで折り返して、「俱生神様お守り下さい。南無妙法蓮華経」と唱え、やっとの思いでここ(仙寿院)に帰ってきた。一分後には、津波がワーツと。速かった。ビックリして津波をみながら見ていたら、その後、波が引き始め、釜石の港から、かなり沖まで底が見えた。その時には、三百人くらいは避難していたと思う。みんなと上から見ていて、波が盛り上がったと思うと白波が立ったから、来た！来た！これは大きいって思ったんだけど大きいどころじゃなかった。高架橋が波に浸っていた。信じられない。波が建物にぶつかる、もの凄く大きい音が出る。ドーン！ドーン！って。それがコンクリートの建物で、波が次々当たって、水煙が立つから、ここまで来た、あそこまで来たって、うことが分かる。だんだん音が近くなってきた時に、「止まってくれー止まってくれー」って、みんな大きな声で叫んで何とか何とか止まって

に、一軒の木造二階建ての家があるのだけれども、二階におぼあちゃん(助けて！助けて！)って手を振っていた。それが津波に建物ごと流されていって。その方は、後日遺体で見つかった。そのまま黙って見ていた。道路を走っている車が走って逃げていた人が、そのまま波にのまれて見失った。地獄の光景だよ。本当に見たくない。あんなの二度と見たくない。表に出たら、門のところまで波が上がってきた。まじい。な、まさかここまでとは思ってはい

たか分らないくらい。だから、震災があつて五日間は、挨拶は決まっていた。人が仙寿院に上がつてくると「生きてたんだね」って、知らない人に「あんたも生きてたんだね」って。誰でもかまわず抱き合うよ。最初に抱きしめたのは私らなんだけども、知らない人、逃げてきた人に「あー良く逃げたよ！本当に良く助かった！」って抱きしめていたんだけれども、抱きしめると、どんな年齢の人でも泣いてしまっていた。本当に安心して、ホッとしてね。良かった。良かった。それが本当に挨拶になつた。だから、まともに話なんか通じることが出来ないよ。

ほとんど息を吐いていなかったが、心臓マッサージと人口呼吸をして、どうにか一命を取り留めた。それから流されてきたのは、ほとんどが助からなかった命だった。本当に街中で残ったのは、ここ仙寿院と近くの寺院だけ。ここから見ると、本当にこ

こしかない。残ってない。これから撤去が始まるから、本当にこしが残ってないのが分かると思う。残った人しかいない中で、とにかくもう助け合わなければ生きていけない。その中で医療関係者、誰がいるのか。死に確認するのは、医師か保健師だけだったから、そこで流れ着いた方々の死亡確認を全部した。次の日まで、寝ないで何人確認できたか分からないくらい。

ほとんど息を吐いていなかったが、心臓マッサージと人口呼吸をして、どうにか一命を取り留めた。それから流されてきたのは、ほとんどが助からなかった命だった。本当に街中で残ったのは、ここ仙寿院と近くの寺院だけ。ここから見ると、本当にこ

こしかない。残ってない。これから撤去が始まるから、本当にこしが残ってないのが分かると思う。残った人しかいない中で、とにかくもう助け合わなければ生きていけない。その中で医療関係者、誰がいるのか。死に確認するのは、医師か保健師だけだったから、そこで流れ着いた方々の死亡確認を全部した。次の日まで、寝ないで何人確認できたか分からないくらい。

津軽宇田山 閻法寺

毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」
6月26日午前11時より「七面天女大祭」
毎月 第2土曜日
午後3時より「唱題修行」
午後4時より「勉強会」

〒030-1403
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 亮幸
副住職 工藤 亮慎・修徒 工藤 亮顯

日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団

妙正寺聖徒団 太田モト子

6月25日(土)午後6時 お会式お逮夜万灯行列
午後7時 お会式お逮夜法要
6月26日(日)午前10時 お会式ご正當法要
毎月1日午前10時 「盛運祈願会」

妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄

〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

美濃乃國 常唱寺 聖徒団

〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙顕寺

日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌眞首著
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」
♪感謝の気持ちを歌で伝えん
唱えること心豊かに...♪
CD「感謝百万遍陀羅尼」
「ないないブルース」

好評発売中!

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myokuenji.jp

日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団団長

新聞 智雄

〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

東日本大震災津波そして地震その2

《避難所として》

三日間、仙寿院に泊まったのは五百七十人。本堂・建物のなかで。今(取材日)ここにおられるのは、全員家が災害でなくなってしまった方々六十三人。

人数が多すぎるために、食料が行き届かないということ、余震に対しての不安はあったけれども、さほどの混乱はなかった。私たちが大変だったのは、水ない、電気ない、ガスない、何もありません。米はあるけど炊けない。それ以上に震災のあった日は寒かった。みんな濡れている人もいるわけだから、火を焚いて暖をとりたい。じゃあ、向こうにドラム缶があるから使っていよって。流れついたものは濡れているから燃えないわけ。でも本当にもう寒い。そこで、思いついたのが古くなった塔婆。ちようど軽ワゴン車いっぱい積んであったから、何とか暖をとることができた。

でも、このままじゃダメだ。五百七十人分の毛布もない。寝ないで、大丈夫だった民家をまわって、毛布出してくわって頼んだ。ダルマストープ出しても、廊下まで人がうずくまっているんだからどうしようもない。でなきゃ五百七十人は入らない。

一番大変だったのは、二日目。一日目はみんなノドが乾くくらいだった。トイレは使えない、水は出ないけれども消防団が防火用水をくみ出して生活用水に使用することができた。

二日目は、お腹が空いても、どうしようもない。町は歩けないから、山越えて、隣町まで食料を求めに行っただけでも、隣の町の人たちは、これだけ被災しているってことを知っている人は少なかつた。津波がきたんだってねっていう程度。「津波きたんだってねっていう状態じゃないですよ。町が壊滅し

てますよ。」自分たちも被災して電気が使えないから分らないのが当たり前。山越えて6・5時先のスーパーに行つて、町の様子を写したものを携帯電話で見せると、「こんなにひどいんですか?」っていう状態。町でとりあえずチョコレートを購入した人が、みんな可愛そうだからって、水なりなんなり持たせてくれる。けれども、重くて前にすすめないんだよね(笑)しようがないから覚悟きめて瓦礫の街中歩いてきたよ。町は車が燃えているし、車が三台重なっているような瓦礫の山の中を歩くわけだから、釘を踏み抜いて、えらい思いした。朝九時に出た。三時過ぎにもどって来て、みんなにチョコレート一枚ずつ配るところが出来た。その日の夜、市の職員がおにぎり二百個を持ってきてくれて分け合った。それが二日目。

三日目はおにぎり二百五十個を頂いたが、やつと水をポリタンクで汲んで一口あるかないかという状態。だからこれじゃ飢えて駄目だから、市の職員の協力のもと、西の方の小学校が空いているということと夜までに三百人移動することが出来た。移動する際に、靴のない人が非常に多かつた。みんなあわてて裸足で逃げてきたから、まさかそのままにしておけないから、下着靴あるだけ出したから、家の物が全部ないって...。

避難所ということで仙寿院には、ありがたいことに沢山の物資が送られてくるんだけど、半分くらいは必要じゃないものが送られてくる。人数が多いと、そこに十個とか送られてきても困ることが多い。そのような状況は、市や行政よりも現場の避難所のほうが把握している。市の方は情報が少ない。物資を送っていたけど、避難所同士のネットワークが強いと、それぞれに何が足りない、何が必要っていうことで補い合つて助け合う。市もそれに任せているから、仙寿院が物資の

集積場になって、ここから本当に困っているところに直接持っていくことが出来る。物資が送り届けられて、一番大切なことは、分ける作業、備蓄する作業が必要になる。そういう作業は、家族にお願いしてある。行政は細かいところまでは出来ないから。行政の支援は、期間がくると、あとはノータッチ。最初、仮設住宅に移った人に聞いた「後は、自分で頑張らなくていい」で終わらされた。お金、食料、釜鍋何もない、だから、鍋と食料を持っていつてもらつて「何とかこれで食いつないでね」って。行政の支援は器を揃えて終わり。生活できるものが必要だけれども、物資としては入ってこないことの方が多い。だから、我々で何とかするしかない。だから、今、当面の生活にすぐ必要な物と後々に必要な物に分けている。全国からの物資は集積所に集められ、後々に必要な物は全国家具の倉庫があるので、そこに備蓄、保管してある。それは行政ではなくてNPOが中心になってやっている。そこに独立して住居に入る人の情報があるから、何をしますかって聞いて対応する。今は、段階を踏まえた支援というよりも、住まわせる所に人を移すだけの手がっぱい。次のことまでは、まだ行けない。それが出来るのは民間の力が絶対に必要。もし、仮設住宅に入ったとしても人と人のつながりを深めたコミュニティを作る必要がある。なぜなら、いったん仮設に移つてしまうと、あれがないってなつても自分で用意して下さいで終わり。そういう方に、NPOから連絡がいつても細かいネットワークで支えあうようにすることが何よりも大切。NPOの代表をやっている方がおられるけれども、その人は震災で、家族を失った。本当の被災者だよ。だけれどもお母さんを探しながら、それでも必死に他の被災者の事をやっている。



仙寿院本堂外観

家族を失った悲しみを少しでも考えさせないように、「あれやれ、これやれ」って。だから「本当にこきつかう住職だな」って(笑)動いてないとダメだから、何もすることがなくなると、何かないって。この間は、本当に何も無いから、「お菓子屋だから柏餅作るんだぞ」って。「えー」って言うから「やかましい、何とかして作るんだ」って言ったら、プレハブだけでも工場再建したよ。お店だせる程じゃないけど。物資でも助けられたのは雑巾だった。みんな避難所にいると目的がなくなつてしまふ。だから、本堂、庫裏を雑巾で掃除することで日常に戻ることが出来る。今、やることがあるということ、ほんのわずかな目標が出来る。それが生きる力になる。

それを言えるのが僧侶の役目としての避難所なんじゃないかなって思う。《我々出来ること》

実際、治安は非常に悪かつた。震災後、二週間は本当に酷かつた。こういう状況じゃおかしくなるよ。おかしくならないほうがおかしい。だから、避難所の人々がそうならないように、二日目の時から、わざと冗談言いながら笑わせているよ。笑わないよね。全然。毎日くだらない冗談言いながら

三日目、四日目が過ぎて。そうするとだんだん笑顔が出てくる。慣れたのかな。今はもう「お寺の人がね、たまにはちゃんとしたこと言いなさいよ」って(笑)「やかまし」って言ったよ。みんなのこと考えているんだって(笑)

そういう風になつたから、今は朝の九時にお勤めして、その時に祈願、回向して法話まで出来るようになった。希望を少しでも失わないようにね。悲惨さっていうのは、テレビ見れば分かる。でも、本当のところは来てみないと分からない。そこで感じた悲しさとか辛さとか喜びは、被災者の人と生活して、相手に対して何が思いやりなのかっていうことを、考えてみて欲しい。東京で、みんな買占めたでしょ。ガソリン・生活物資、その為に被災地には、まったく供給できなかった。東京で買占めた分何かに役に立つたのですかって聞きたい。放射能があつたからこうだつて。それよりも被災地の人達に物がなくて困るのであれば、自分達が買占めをしないことで、どれだけの人が助かるのかっていう思いやりを今、一度考えて欲しい。佛のみ教えに大慈大悲であるけれども、平たく言えば思いやりだよ。どんな時も笑顔を忘れないこと。それが行い。物資は必要だけれども、今の時代は物やお金がないと何も出来ないと思つている人もいると思う。そうじゃなくて、知つている人、知らない人に関係なく、朝でも一人一人に声をかけて、笑顔を見せる。誰でも出来る大切なことがあるということをお忘れないうで欲しい。

※以上、インタビューをそのまま。

《編集にあたって》

わたしが想像していた被災地の現状は、震災三週間経つたときでさえ、凄惨なものでした。しかし、そこに生きている人々は何かと闘いながら必死に生きていました。今回、お話を伺つて

この状況の中で感じたことは、言葉でなく行動することの大切さ。どんなに良いことを言つても通じることのない状況、それには行動することだと思ひました。本当に人によって様々です。ある酪農家のお話を聞きました。それは、牛乳は栄養価が高いから捨てるのはもったいない。だから近所の人に配つて、少しでも笑顔が見られればこんなに嬉しいことはない。一生懸命やつていけば、生活を取り戻せる日が絶対に来ると信じている。政府の補償が必要と騒がれている時に、仙寿院聖徒団の団長上人のようにみ佛の心でお題目をとえ、自分のことを顧みず、人々のために尽くしている人が沢山いることをどうか忘れないで下さい。時間が経てば経つほどに、世の中の関心は薄くなつていきます。一番大切なことは、「南無妙法蓮華経」とお題目をとえ、一人一人が意識して出来ることから、長く続けていくことだと思ひます。

最後にこの度のよろこびの編集にあつて御協力くださいました仙寿院聖徒団団長・芝崎惠應上人と御寺族、長時間の運転と道案内をして下さった阿部是眞上人に感謝いたします。

来月は芝崎団長上人の「指定避難所のお寺の僧侶として、やつてきたこと、これからやるべきこと」というタイトルで特集を組む予定です。



仙寿院の門前(石段の10段目まで津波がきた)

聖徒の体験談

お守りを身に付けて、お題目を唱えるのが楽しみ

「幼い頃からお寺は怖い場所というイメージをずっと持っていたのに、お寺とこんなに多くのご縁をいただくとは思っていませんでした。」

このようにお話をされるのは名古屋市東区本覚寺聖徒団(伊藤守温団長)の聖徒・城守ハルさん。

城守さんは北海道出身で、家族中が熱心な法華経の信者でしたが、お寺は怖いところというイメージが離れず、過ごされていたそうです。そんな城守さんが出会い結婚されたご主人は、なんとお寺の息子さんでした。父親がある日突然ご主人を連れてきたとのこと。ご主人の父親は北海道でお寺を開き、荒行堂も四度出られたお上人。ご主人は、父親が亡くなったこととお寺から離れ、会社に勤めることとなりました。

城守さんが伊藤団長に出会ったのは、約三十五年前のこと。ご主人の仕事の関係で北海道から名古屋に引っ越してきた城守さんは、名古屋でお世話になるお寺を探していました。亡き義父上人のご友人のお上人よりお寺を紹介いただきましたが、タイミングが合わず、紹介されたお上人になかなか会うことができませんでした。そのため、早くお寺にお参りに行きたいと思っていた義母の願いも叶わずにいました。

そんなある日、毎日仕事へ出勤する時に前を通っていた小さなお寺で、赤い旗が目飛びこんできました。この旗こそが伊藤団長との出会いでした。この旗は、伊藤団長の荒行堂初行成満の成満旗でした。この旗を見るや義母に話をし、荒行堂の成満会に参列することになりました。成満会での木剣の響き・団扇太鼓の音・お題目の音が山

内に鳴り響いている中にとると、これまでのお寺が決められない不安が一気に消え去り、心がすっきりと洗われた気持ちになり、本覚寺でお世話になろうと決めたそうです。

年中行事にはお参りだけでなく、台所にも入りお寺のために尽くされたとのこと。そんな折、伊藤団長が九識靈断法の相伝を受講し、盛運祈願会が開催されるようになりました。城守さんは、毎月休むことなく参詣し、他の聖徒と共にお題目修行により一層励んでいくようになりました。「家族全員がお守りを持ち、毎月毎月無事に過ごすことができています。主人と本覚寺さまとの不思議な佛縁のおかげで、お寺と多くのご縁をいただきました。今後もお寺のために尽くしていきたいです。」

お寺にお参りをし、佛さまやご先祖さまに手を合わせることを大切にしている城守さん。城守さんには目標としている親戚がいます。城守さんの母方

の実家も熱心な日蓮宗の信者で、鎌倉にあった廃寺を実家のある福島まで移転し再建させたほどの熱心さ。現在でも日蓮宗に縁のある大太鼓や団扇太鼓を作る仕事をされているそうです。その中でも、いとこにあたる宮本光敏さんと奥さんの良子さん夫妻は、熱心に信仰をされていてお手本のような存在とのこと。佛さまに向かい合う二人の姿を見て、自身もあのようになりたいと思ひ、一生懸命にお参りをしているそうです。

伊藤団長と出会った頃の小さなお堂が、時が経つにつれて替えにより大きくなり、年々お参りできるようにとエレベーターが付き、鬼子母神の石像ができるなど、本覚寺の変化を見守りながらお参りを続けることが、楽しみだそうです。

「お寺は怖いとずっと思っていたイメージも、本覚寺さまに来るようになりすっかりなくなりました。お守りを身に付けて本覚寺のみんなと和讃を歌い、お題目を唱えるのが楽しみです。これからもお上人さまの指導を受けてがんばりたいです。」と笑顔で語ってくれた。名古屋市 本覚寺聖徒団

伊藤守秀副団長

よろこび 佛教語解説

今月から、佛教語解説を執筆していただきます。

総合研究所・霊研主任



新聞 信應

『因縁』

緑がますます濃くなる季節になり

日蓮大聖人の歩まれた道

お誕生(その一)

総合研究所 小泉 輝泰

「日蓮は日本国東夷東条安房国海辺の旃陀羅が子也(佐渡御勘気鈔)」。安房の国(現在の千葉県南房総地域)は大変温暖な気候に恵まれた土地で、北からは親潮、南からは黒潮と両海流の恵みを受け、季節を問わず豊富な海の幸を堪能することができ、日蓮大聖人さまのお生まれになった小湊の地(現在の鴨川市小湊)は、現在でもとても豊かな漁師町として知られ、当時も今と同じように穏やかな房州人の暮らし海辺の漁師村であったことが伺えます。

時は今より八〇〇年ほどさかのぼり、鎌倉時代初期(一二〇〇年代初期)のことです。鎌倉幕府を打ち立てた源頼朝の死後、幕府内には政權争いが絶えず、やがて実質的な権力は、將軍家より執權である北条家に移ろうとしていました。そんな矢先、時の上皇である後鳥羽院は、政

治の実権を再び朝廷へ取り戻そうと、鎌倉幕府に対し兵を挙げました。いわゆる「承久の乱」と呼ばれる戦いです。圧倒的勢力をもつ幕府の大軍に、朝廷はわずか二ヶ月あまりで完敗し、後鳥羽院は隠岐島へ流罪の身となつてしまいました。上皇、天皇を始め数々の皇族達が武士の手によつて流罪されるなど前代未聞の事変は、いよいよ武家による政治の始まりを示すものでした。と同時に、長きにわたつた源平合戦が終わりを迎え、ようやく治まりかけていた世情に、再び乱世の様相がその暗い影を落とし始めていたのです。



日蓮さまはご自身の出生を語られる時に『旃陀羅が子』という表現をよく用いられます。それは「生き物を捕る(殺生をする)ことを生業とする者」。つまりご自身が漁師の子であることを意味しています。古くは『チャンドラ』というインドでも低い身分を意味する言葉が語源です。現代のように職業選択の自由もない当時は、王族や武士のように非生産階級の身分は高く、生産階級、とくに生き物を殺さなければならぬ職業は低い身分と考えられていたのです。

しかし日蓮さまは、決してご自分を卑下されていたわけではありませぬ。そのご真意は「私は特別な生まれの者ではなく、むしろ片田舎の最も賤しい身の生まれであるが、そんな私でもご本佛さまの大慈悲によってお題目を伝え弘める使命を与えていただいたのだ」との喜びを示すお言葉なのです。

ました。今月号から佛教語解説を始めさせていただきます。皆さんの中でのような言葉の意味を知りたいなどの事があれば、投稿を心よりお待ちしております。

因縁と聞くとあまり良いイメージを持たないのは、私だけでしょうか? 『因縁』とは「因」と「縁」と間接条件(縁)であります。

たとえば庭の草花を見て下さい。今咲いている草花は結果です。そうなる為の直接原因としての因は種

です。種がないと絶対に花は咲きません。では種が有れば、どんな条件でも花が咲くかと言うと、決してそうではないのです。水がないと駄目でしょうし、その種に適した温度(気候)、適した土など様々な縁(間接条件)が必要となり、結果として綺麗な花が咲くのです。

私たちはお題目をお唱えしている聖徒です。迷い多きこの世の中に、お題目弘通の蓮の華を咲かせる為、に、全ての人が笑って過ごせる様に、共に幸せのお題目の種をまく道に進んでいきましょう。

俱生神月守のご案内

俱生神月守お申し込み要項

新規お申し込み、及び、月守体数の変更については、事務手続上、毎月5日までに連絡をお願いします。

発送は、日蓮宗霊断師会総務局が担当していますので、お申し込み、変更等は直接ファックスで「0944(67)2930」に、ご連絡ください。

*新規お申し込み、体数変更の場合
お申込み体数を明記の上、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、送り先：寺院名(聖徒団)団長名、以上をご記入の上、「0944(67)2930」までファックス下さい。

四月発送分「五月月守」より、送料は無料となりました。振込用紙(日蓮宗霊断師会総務局宛、護持献金振り込み用)を同封します。俱生神月守と同時に送付します。護持献金は今までと同様の金額です。

月守りが毎月25日までに到着しない場合は、ご面倒でもファックスでお知らせください。確認いたします。よろしくお願ひ致します。

ファックス先 『日蓮宗霊断師会総務局』宛
ファックス番号 0944(67)2930
問合せ先 0944(67)0533

よろこび法話

生死の境界を繋ぐ唯一の手段は「祈り」

北海道赤平市 大穰寺 時田 了源

この世に苦しみがなければ、お釈迦さまの教えは必要ないのかもしれない。しかし私たちが凡人、人間に苦しみは絶えないものです。生、老、病、死、愛別離苦(愛する者と別離する苦)、怨憎会苦(怨み憎む者に会う苦)、求不得苦(求める物が得られない苦)、五蘊盛苦(あらゆる精神的な苦)に示される四苦八苦のごとくです。残念ながら苦しみの世界から私たちは解放されないのかもしれない。しかし一つだけ苦しみから逃れる方法があるとすれば、それは、南無妙法蓮華経の「祈り」であると私はお勧めしております。

苦の中で最も受け入れ難い苦しみと問われれば、私は迷わず「死」と答えます。佛教国であるこの日本で、お葬式を大切にしてきた慣習も「死」を重視してきた証です。「まず臨終の事を習うて後に他事を習うべし」(妙法蓮華経)と日蓮大聖人も臨終、死を最重視されておられます。

昨今の葬儀事情を振り返ってみますと、随分と簡略化され、本来の儀式から離れ、我が国の先人達が築き上げてきたものの崩壊が進んでいるように感じられます。直葬といって、病院から火葬場に向かうこともあるようですし、火葬



未曽有の天災、三月十一日の東日本大震災。地震、津波、火災。一瞬にして二万人以上の尊い命を奪い、残念ながら現代科学をしても、これほど大きな震災を予見できる術を持ち得ませんでした。

お釈迦さまに感謝し、そして祈る

科学は確かに私たちの生活を豊かに、そして便利にしてくれました。そのことには私自身も感謝し敬意を表するところですが、大震災の恐ろしさを目の当たりにして無力さを感じずにはいられません。原発、買いだめ、風評被害と、人災も随分と足かせとなっており。経済の不安も今後残され、大変な経験を私たちは受け入れなければならなくなりました。あの時ばかりはどうすることもできず、ただ祈ることしかできませんでした。しかし、その祈りは、物故者の供養、避難者の生活安定、そして速やかなる復興への祈りであり。何より、こちらからあちらへの繋がりを祈るのです。

相手のことを思い遣る心持ち、どうしたらよいか考える心持ち、そしてどのように実行するかを「祈り」を通じて私たちは真剣に取り組んでいかなければなりません。法華経の真髓を「久遠実成」という四文字で表すことがありますが、つまり永遠の佛とは、南無妙法蓮華経、御題目の祈りの連続なのかもしれません。お釈迦さまの永続性を持つ(たもてる)もの、それが祈りの連続性なのだと感じ入ります。一日、一日、お釈迦さまに感謝し、そして祈る。私たちがお釈迦さまや諸々の佛さまを、まず必要としなければ存在もないのかもしれない。前述のごとく、祈りによってのみ故人と繋がることができるとするならば、私たちもお釈迦さまの存在を信じて祈ったならば、それは繋がることのできるのかもしれないと思つたのです。「絆」という言葉を最近よく目にしますが、本当の絆、「縁」を祈りによって今一度、一つずつ

が終われば散骨といつて、遺骨を撒いてお墓も必要がないのごとくです。淡々と物事が進められ、どうにも心がなく、祈りが感じられないように思えてなりません。

日蓮宗の葬儀は法華経を読み、御題目を唱え、先師が培われた法要儀式に則って営まれます。それは、あたかも二千年以上前に、お釈迦さまをお送りしたのごとく故人を偲び、厳粛に丁寧にお送りする儀式であります。

生きていくうちに、誰とも会うことができず、話もできませんし、繋がることもできません。では、死を迎えますと今まで通りの繋がりと異なるのでしょうか。夫婦であろうと、親子であろうと、兄弟、親戚、そして友達であろうと、愛別離苦のごとく別離の悲しみに繋がりが果てたように感じてしまうものです。死を境にあちらの世界を彼岸と呼んだり、霊山浄土と呼んだりしますが、全く異なつた世界に旅立つていったように思われます。そこで大切になってくるのが「祈り」であります。生死の境界を繋ぐ唯一の手段で、「祈り」によってのみ故人と繋がることのできるのではないのでしょうか。



結ぼうではありませんか。

今月、六月十八日は、東日本大震災より百ヶ日を数えます。悲しみを乗り越え、復興に向けて様々な動きを見せ始め、日本国中の人が、思い、考え、実行に臨んでおります。今まさに実行されておられる方も、復興を考えられている方も、遠方より思いをはせる方も、少しでも多くの方が、そしてすべての方が祈りある生活を送られることを、お勧め致します。

最後に、ひたすらに、大震災物故者の御冥福と、残された方々が穏やかな生活を過ごすことができまうように私も皆様と共に祈り申し上げます。

イラスト 田古 寿延

編集後記

読者の皆様のご意見をお待ちしております。メール、FAX、ハガキでお送り下さい。抽選で、十名の方にお経本と数珠を入れる袋を差し上げます。

送り先は、一面のよろこびタイトルの右の欄をご参照下さい。

佛壇駒形屋

〒070-0054 旭川市4条西5丁目2番3号
TEL(0166)22-4643 FAX(0166)22-4672

代表取締役社長 駒形 貞洋

各種寺院用仏具取扱い・修復等もお任せ下さい
仏壇・仏具・数珠・線香・ローソク各種
お仏壇クリーニング・修復も行っております
お気軽にお問合せ下さい
全国発送承ります

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是真

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

がんばれ日本!

正立寺 妙法寺 番神聖徒団
団長 新聞 信應

毎月1日 午前10時 盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404
島根県雲南市三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

(株)伊藤家石材

〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目
TEL(0166)51-5017 FAX(0166)54-3272

お気軽にお問い合わせ下さい。

新規墓石建立・墓石のリフォーム・墓石の移転工事
戒名刻字・各種墓石用品、取り扱いしております。
御見積もりは無料です。お気軽にご相談下さい。

【一級フラワー装飾技能士の店】

花キューピット
JFTDフラワーギフト全国配送システム

■生花・鉢物 ■フラワー装飾
■慶弔用スタンド生花 ■花とみどりのギフト券
■ブライダルブーケ ■フラワースクール

全国各地発送します

有限会社 **Florist Gallery**

花くらぶ

☎0120-48-7722
旭川市神居3条7丁目1-7
TEL(0166)61-1188(代)
FAX(0166)61-0662
代表取締役 湊見 英一
HP http://hanaclub.jp
E-mail info@hanaclub.jp